

令和元年度

垂井町教育委員会の事務の管理及び執行に関する  
点検評価結果報告書

令和2年11月  
垂井町教育委員会

教育委員会の活動状況

令和元年度			
	実績	成果・課題	評価
教育委員会会議開催状況	開催回数： 定例会議 11回 臨時会議 0回  審議件数： 専決報告 6件 議案 68件	<b>【成果】</b> ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律、垂井町教育委員会会議規則等に基づき、本町の実情に応じた多様な住民の意向を教育行政に反映するため、月1回開催する定例会議において議案審議、協議、報告等を行った。特に、小中学校における課題・今日的課題について、各教育委員との共通認識を図り、問題解決に向けて適切に対応することができた。	A
調査活動の実施	学校訪問 令和元年10月10日～10月30日  研修 令和元年6月14日 養老町 ・西濃地区教委連絡協議会総会並びに教育委員研修会  令和元年8月5日 美濃国府跡、五明稻荷、陣屋跡・菁莪記念館、禅幢寺、伊富岐神社、真禅院、南宮大社、垂井の泉、八重垣神社、表佐ハリヨ ・教育委員会・小中学校長会・園長会・不破高校校長合同視察研修  令和元年11月8日 恵那市 ・岐阜県市町村教育委員会連合会研究総会  令和元年11月12日 関ヶ原町 ・不破郡教育委員研修会  令和2年1月23日 垂井町登録有形文化財現地調査 ・磯野家住宅主屋等、鉄塔山神社本殿、願證寺御殿・大広間	<b>【成果】</b> ・学校訪問では、学校経営の方針、危機管理、学力向上及びいじめ防止や健康管理等への取組などについての懇談や、授業参観を行い、小中学校における現状把握及び問題解決に関わる指導助言を行った。  ・合同視察研修においては、町の史跡を巡り、保幼小中高それぞれの立場におけるふるさと教育の推進の在り方を見直す機会となった。 ・これらの調査・研修により、町の教育の実情と歴史や伝統への理解が深まり、各教育委員の資質向上に寄与した。併せて、町教育行政全体の資的向上にもつながった。	A

小・中学校

令和元年度			
方針	○一人一人に「生きる力」を育む指導をする。 ○学校・家庭及び地域が相互の連携を深める。		
重点	取組項目	成果・課題	評価
確かな学力の育成	基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得を図り、思考力・判断力・表現力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養う。	<b>【成果】</b> ・児童生徒から驚き、憧れ、疑問を引き出し、課題につなぐよう導入の工夫をするとともに、まとめの時間を確保することで、児童生徒が自ら課題をもって学習し、分かる、できる喜びを味わうことができる授業づくりに努めることができた。 ・ICT機器の活用や、小集団での話し合いの積極的な位置付け等、学習活動を工夫することで、主体的に学習に取り組む態度を養うことができた。 <b>【課題】</b> ・全ての児童生徒が主体的に学び、確実に学習内容を理解できるよう、ICT教育を進めるとともに、授業の終末のまとめ方を含めた学習過程等をさらに工夫する必要がある。	B
	個の実態に応じた指導・援助の工夫・改善を図る。	<b>【成果】</b> ・どの子にもよさや持ち味があるという意識のもと、児童生徒のよさを認め広める場を積極的に位置付けることができた。 ・個のよさを発揮することができるよう、分からないときに「分からない」と言える学習集団作りに努めることができた。 <b>【課題】</b> ・授業前の実態、授業中の学習状況、授業の終末段階の学習の定着状況等から、一人一人の実態を把握し、充実感や達成感をもたせる指導・援助を一層充実させる必要がある。 ・ICT機器の活用を進め、より個に応じた指導の在り方を追究する必要がある。	B
	学習の規律や教科の学び方の定着を図るとともに、学び合う学習集団づくりを推進する。	<b>【成果】</b> ・どの授業においても、課題を提示するとともに、学習のまとめを板書に位置付け、課題解決的な学習を進めるなど、学び方の定着を図ることができた。 ・学習規律としての話を聞く姿勢、書く姿勢、鉛筆の持ち方、下敷きや定規の使用について、積極的に指導することができた。 ・子ども同士で学びを深めることができるよう、小集団での話し合いの場を積極的に位置付け、話し方や聞き方、交流の仕方などの指導を工夫することができた。	B

令和元年度

重点	取組項目	成果・課題	評価
		<p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの子ども学習の規律や教科の学びを身に付けることができるように、さらに小中一貫した指導を徹底するとともに、子ども同士で学びを深めることができるよう、より効果的な交流の仕方を工夫する必要がある。</li> </ul>	
<p>豊かな心の育成</p>	<p>生命を重んじ、人権を尊重する教育を推進する。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひびきあいの日」や人権週間の取組、いじめの未然防止教育等を通して、人権感覚を高め、生命を重んじ、他を思いやる心を育てることができた。</li> <li>・「いじめは、どの児童生徒にも、どの学校でも、起こりうるものである」という認識のもと、学校いじめ防止基本方針に基づき、アンケート調査の質問内容の改善や調査中の児童生徒の様子の観察、全校体制の整備等、いじめの早期発見・早期対応に努めることができた。</li> <li>・よさ見つけや仲間と活動する楽しさを味わう活動等を積極的に位置付けることを通して、仲間の頑張りを認め、伝え合うなかで、好ましい人間関係の醸成に努めた。</li> </ul>	<p>A</p>
	<p>特別の教科 道徳を要とした、計画的・実践的な道徳教育を推進する。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位時間のねらいを明確にするとともに、道徳的価値の自覚を深める場を大切に、考え、議論する道徳授業の在り方を追究しながら実践を積み上げることができた。</li> <li>・道徳教育推進協議会と連携した、あったかい言葉がけ運動について、地域・家庭だけでなく、学校においても活動が定着し、児童生徒の自己肯定感の育成につなげることができた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b> (削除)</p>	<p>A</p>

## 令和元年度

重点	取組項目	成果・課題	評価
	「ふるさと垂井」への誇りと愛着をもち、将来の夢や目標をもつ教育を推進する。	<b>【成果】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり協議会・学校運営協議会の協力を得て地域との連携を深め、垂井の自然・文化・伝統を学習に取り入れ、計画的・継続的に実践することを通して、地域のよさを学ぶことができた。</li> <li>・地域の行事やボランティア活動に参加した児童生徒の価値付けをしたり、事前・事後の指導を充実させたりすることにより、児童生徒の意識を高めることができた。</li> <li>・府中小、岩手小、北中の3校は、コミュニティ・スクールとして地域ぐるみでの教育が一層進み、児童生徒がふるさとのよさを実感し、愛着をもてるようにすることができた。</li> <li>・各学校で取り組んでいるふるさと教育について、学校教育公表会で広報することができた。</li> </ul>	A
健やかな体の育成	運動する楽しさや喜びを味わわせるとともに、体力・運動能力の向上を図る場や機会を充実する。	<b>【成果】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の活動や休み時間の活動に、体力を向上させるための活動を位置付け、日常的な体力向上に努めた。</li> <li>・体育の授業において、意図的に運動量を増やしたり、より効果的な準備運動を工夫したりする取組を行った。</li> <li>・小学校においては、中休み等に全校児童が元気に外で遊んだり運動したりするようにし、体力向上につなぐよう努めた。</li> </ul> <b>【課題】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・握力や柔軟性等、課題となる体力を個の実態に応じて身に付ける指導を行う必要がある。</li> <li>・年度末からの新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策に伴い、低下した体力向上についての取組を段階的に行う必要がある。</li> </ul>	B
	自らの命を守り抜くための教育と健康で安全・安心な生活づくりを推進する。	<b>【成果】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校危機管理マニュアルの改訂を進め、災害や不審者対応等、状況に応じた命を守る訓練を実施し、自らの命を守るための教育を行うことができた。</li> <li>・登下校指導や交通安全指導、駆け込み訓練の実施及び地域の見守り活動の周知等を通して、自らの命を守るために必要な知識や判断力、行動力を身に付けることができるよう努めた。</li> </ul>	A

令和元年度

重点	取組項目	成果・課題	評価
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康に関心をもち、基本的な生活習慣や食生活の確立に取り組むために指導の工夫ができた。</li> <li>・けがの未然防止に努め、安全教育に関わる指導を充実させることができた。</li> <li>・食育や眠育に関わる家庭での取組について保護者に啓発することができた。</li> </ul>	
<p>個のニーズに応じた特別支援教育の充実</p>	<p>自立と社会参加をするための基礎となる力を育てる。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援を必要とする児童生徒に対して、個別の教育支援計画の作成を進め、個に応じた支援の充実に努めた。</li> <li>・基本的な生活習慣を身に付けるために、保育園・幼稚園・小学校・中学校が、個別の支援を行うために必要な情報を交流し、共有し合うことができた。</li> <li>・特別支援コーディネーターを核として、研修や情報交流、保護者や他機関との連携等を通して、教職員の指導力向上を図り、児童生徒に確実に力を付けるよう努めた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で、どの子ども「わかる、できる」充実感をもつことができるよう、ICT機器の活用の仕方を工夫するとともに、ユニバーサルデザインによる授業づくりを一層進めることが必要である。</li> </ul>	<p>B</p>
	<p>誰もが安心して生活することができる学校環境づくりを推進する。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒同士や教職員によるよさ見つけ等、一人一人のよさや頑張りを価値付け、集団の一員として位置付けるよう努めた。</li> <li>・教師間で情報を共有し、特別に支援が必要な子どもに、組織的に指導することができた。</li> <li>・児童生徒の実態に応じて、定期的にケース検討会議を行ったり、アセスメントシートを使って支援を工夫したりして、児童生徒への支援の在り方について、校内で検討し、支援することができた。</li> <li>・教室の前面の掲示や物の配置等、ユニバーサルデザインを意図して、どの子どもより安心して集中できる環境づくりに努めることができた。</li> </ul>	<p>A</p>

## 令和元年度

重点	取組項目	成果・課題	評価
	特別な支援を必要とする児童生徒の支援体制の充実を図る。	<b>【成果】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・スクールアドバイザーやスクールカウンセラー、スクール相談員を校内組織に位置付け、子どもたちや保護者とのカウンセリングを充実することができた。</li><li>・特別支援教育コーディネーターを中心にケース会議や就学相談を行ったり、幼児教育指導員、特別支援教育指導員との連携を図ったり、児童生徒の実態に応じて、早期から医療や専門機関と連携したりするなど、支援の必要な児童生徒の早期発見・早期支援に努めた。</li><li>・適応指導教室(フリースペースたるい)と学校との連携を充実することで、通室生の登校復帰への意欲を高めることができた。</li></ul>	A

幼稚園

令和元年度			
方針	○一人一人に「生きる力」の基礎を育む指導をする。 ○園・家庭及び地域が相互の連携を深める。		
重点	取組項目	成果・課題	評価
生活する力の育成	基本的な生活習慣の定着を図り、健康で安全な生活をする力を育む。	<b>【成果】</b> ・睡眠の大切さにあわせて、朝ごはんの大切さを家庭に伝えることにより、生活のリズムが整い、気持ちよく園生活を送ることができるようになった。 ・「げんきもりもりカード」を使用することによって、子どもが睡眠や朝ごはんの大切さを意識できるようになった。 ・幼児が体を動かしたくなる環境を作り、様々な遊びを経験することで、体を動かす心地よさを味わわせることができた。	A
	身の回りの物の整理整頓をする習慣を定着させる。	<b>【成果】</b> ・幼児が靴揃えや持ち物の整理整頓に意識が向けられるようになり、進んで整えようとするようになった。	A
	身近な自然を通して、幼児の体験を豊かにする環境を構成する。	<b>【成果】</b> ・積極的に園外散歩に出かけ、身の回りの自然の移り変わりに興味をもつことができ、収集した自然物を使って遊びを広げていくことができた。 ・飼育や栽培活動を通して生き物への興味や関心が深まった。	A
人と関わる力の育成	小・中学校との交流や地域での体験活動の充実を図る。	<b>【成果】</b> ・小中学生や不破高校生と一緒に生活したり、遊んだりすることで、交流を深めることができた。また、絵本の読み聞かせを活動の中に位置付けることにより、身近に感じ合える体験ができた。 ・地域の自然・文化等に関わる体験活動を位置付けることができた。	A
	一人一人の自己発揮や協同して活動する力を育む。	<b>【成果】</b> ・幼児同士が、同じ目的をもって意見を出し合ったり活動したりできるように、環境を構成することができた。	A
	友達とのかかわりを深め、思いやりの心を養う。	<b>【成果】</b> ・一対一のかかわりを大切にして指導することで、子どもは愛されていると感じ、自己肯定感を高め、思いやりの心の芽生えを育むことができた。	B



## 令和元年度

重点	取組項目	成果・課題	評価
		<b>【課題】</b> ・一人一人の気づきや発見を十分受け止め、互いに思いを出し合って遊びを進めていけるよう、教師の幼児理解を深める必要がある。	
自ら学ぶ力の育成	幼児が没頭して遊ぶことができる環境を構成する。	<b>【成果】</b> ・幼児の実態に合わせて、幼児が遊びの楽しさを味わえるように、環境構成を工夫することができた。 <b>【課題】</b> ・一人一人の実態を把握し、自ら考え、表現しようとする活動が、一層展開できるよう援助を工夫する。	B
	(削除)		
	読み聞かせを通して、豊かな表現にふれ、言葉で伝え合う力を育む。	<b>【成果】</b> ・歌声活動や制作活動を通して、自ら表現する意欲が増し、感じたりしたことを自分なりに表現できるようになった。 ・表現活動を発表する場を位置付け、保護者や地域の方々に伝え、認めていくことで、幼児の表現する力を育むことができた。	A
	自分の感じたことや考えたことを表現する力を育む。	<b>【成果】</b> ・先生や友だちと一緒に体を動かして遊ぶことを通して、体を動かす楽しさを味わわせることができた。 ・同じ目的をもって遊びながら、ルールや役割を決め、より遊びと面白くしようとする力が育った。 <b>【課題】</b> ・発達の段階を十分に理解し、子どもがより主体的に遊びを展開できるように指導する必要がある。	B

## 令和元年度

重点	取組項目	成果・課題	評価
一人一人の発達の特성에応じた指導の充実	個に応じた指導の充実を図る。	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の幼児の活動の様子や心の動き・生活環境等、背景を捉えた園内研修を実施することができた。また、具体的な指導の方法を記録に残すなどして、園内で共有し、支援に生かすことができた。</li> <li>保護者との合意形成に留意しながら、幼児の育ちについて連携を深めることができた。</li> <li>スクールアドバイザーやいずみの園等と連携し、障がいの状態に応じたケース検討会議を実施し、見通しをもって指導することができた。</li> <li>幼児の発達の捉え方や園での支援方法、幼児期に大切にしてきたことを具体的に小学校に伝える機会を増やすことができた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校と園の教員・保育士等が互いに参観をし、個や集団の育ちに関わる情報を日常的に共有する必要がある。</li> </ul>	B
	特別な支援を必要とする幼児の早期支援体制を充実する。	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スクールアドバイザーやいずみの園等から知識や情報を得て、一人一人に応じた支援を行うための連携を図ることができた。</li> <li>定期的に、園内ケース検討会議を実施し、一人一人の特性について、理解を深めることができた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関との連携を一層密にし、保護者に早期から幼児の状態を伝え、支援を進める必要がある。</li> <li>専門機関から得た情報を全職員に周知し、支援を進める。</li> </ul>	B

社会教育

令和元年度			
方針	○「家庭」「学校」「地域社会」が連携し、社会全体で取り組む地域づくり・人づくりの推進		
重点	取組項目	成果・課題	評価
地域づくり型生涯学習活動の推進、指導者の養成	多様化、高度化する生涯学習ニーズに対応した学習機会の充実	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シニア向け講座や成人者向けセミナー等の講座を開催することができた。さらに、各地区では、地区まちづくり協議会の協力を得て、生涯学習講座を開催し、学習機会の充実を図ることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習講座を開催し、学習の機会は充実できている。今後は、受講者が学んだことを、地域の活動や学校の支援活動に役立てることができるように講座の内容を考えていく必要がある。さらに、指導者の養成について、検討をしていく必要がある。</li> </ul>	B
	社会教育団体等への指導・助言並びに活動への支援	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育団体等への活動補助金の交付や、団体が自立した運営ができるように指導・助言、活動への支援に努めることができた。</li> </ul>	A
	自己の知識、技術、経験を地域で役立てる機会の充実	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の知識や技術を学校や地域のために役立てたいと希望された方には、学校支援ボランティアに登録いただき、その情報を小中学校や地区まちづくり協議会に提供することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援ボランティアの登録者数は増加しているが、学校や地域で活躍できるボランティアの数が限られるため、学校や地域と相談し、ボランティア登録者の活動の場を広げていく必要がある。</li> </ul>	B
地域で子どもを育てる環境づくりの推進	体験活動や地域住民との交流活動を通し、地域で子どもを育てる地域子ども教室の充実	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区まちづくり協議会が中心となり、特色ある地域子ども教室を開催し、青少年の体験活動・交流活動・学習の機会を提供することができた。さらに、地域ボランティアの協力を多く得ることができた。</li> </ul> <p>○地域子ども教室                      ≪全教室数≫                      7地区 令和元年度 88教室                      (平成30年度 83教室)</p>	A

令和元年度			
重点	取組項目	成果・課題	評価
		≪開催回数≫ 令和元年度 125回 (平成30年度 125回) ≪参加児童数≫ 令和元年度 5,215名 (平成30年度 3,419名) ≪地域ボランティア等参加人数≫ 令和元年度 1,697名 (平成30年度 1,509名)	
	地域全体で学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部事業」の推進	<b>【成果】</b> ・小中学校が行う、技術・文化・芸術・スポーツ活動等に地域の方が多く関わり、学校を支援することができた。 ○ボランティア登録者数 令和元年度 662名 (平成30年度 650名) 学校支援状況(登下校安全見守り支援・中学校部活動を除く) ・延べ回数 令和元年度 410回 (平成30年度 406回) ・延べ支援者数 令和元年度 1,313名 (平成30年度 1,073名) ・垂井町学校支援だよりの発行 (年2回・全世帯回覧) <b>【課題】</b> ・学校支援ボランティアの登録者の情報を学校や地域が上手く活用するためには、登録ボランティア情報の見直しや、支援いただくボランティアの方への連絡方法や連絡の体制づくりを考えていく必要がある。	B
	生活集団、異年齢集団、地域集団の中で子どもを育てる取組や親子が一緒に参加できる機会の充実	<b>【成果】</b> ・地区青少年育成協力推進員会では、地区まちづくり協議会と連携し、特色ある青少年健全育成事業を実施することができた。このほか、町子ども会育成連絡協議会や町VYSが中心となり、インリーダー研修会やジュニアリーダー研修会を開催することができた。研修会では、地域や学校が異なる児童や生徒が、研修を通して交流を図ることができた。	A

令和元年度			
重点	取組項目	成果・課題	評価
	(削除)		
挨拶・声かけから始める青少年健全育成への取組	県内「いつでも」「どこでも」「誰とでも」行う挨拶活動の推進	<b>【成果】</b> ・各幼稚園、保育園、こども園や小中学校のPTAの家庭教育学級の取組を通して、見守り活動をしていただける方の協力を得ながら、「いつでも」「どこでも」「誰とでも」行う挨拶活動の推進を図ることができた。	A
	「あったかい言葉がけ運動」の推進	<b>【成果】</b> ・家庭、学校、地域では、かけてもらってうれしかった「あったかい言葉がけ運動」に積極的に取り組むことができた。今後も、相手のことを気遣い、お互いの人権を尊重できる温かい人間関係づくりや地域社会づくりに取り組んでいく必要がある。 ○あったかい言葉がけ運動応募数 令和元年度 8,233作品 (平成30年度 7,470作品)	A
	青少年育成関係団体の自主的で主体性のある活動への支援	<b>【成果】</b> ・7地区の青少年育成協力推進員会や垂井町青年のつどい協議会、町VYS等の団体に対して、連携が図れるよう、指導・支援をすることができた。地区青少年育成協力推進員会では、地区まちづくり協議会と連携し、特色ある青少年健全育成事業に取り組むことができた。このほか、青年のつどい協議会は、町VYSと連携し、「サンサン夏祭りin朝倉」を開催することができた。中学生のボランティアが中心となり、小学生の体験ブースの運営に携わるなど、青少年の体験活動や交流の場を広げることができた。 <b>【課題】</b> ・地区青少年育成協力推進員では、近年、自治会の会員数が減少していることや、若い世代での推進員のなり手が減ってきており、推進員のあり方について、検討をしていく必要がある。	B

令和元年度			
重点	取組項目	成果・課題	評価
	岐阜県青少年健全育成条例に基づく図書類等取扱業者、深夜入場制限施設等に対する立入調査の実施及び法令遵守の指導	<b>【成果】</b> ・岐阜県青少年健全育成条例に基づく図書類等を取り扱う店舗を立入り調査し、指導を行うことができた。 ○立入り調査回数 令和元年度 6回 (平成30年度 6回)	A
多様化する情報社会への対応	青少年へのインターネット上の違法・有害情報の現状や安心してインターネットを利用するための啓発活動の推進	<b>【成果】</b> ・各地区の青少年育成協力推進委員会や各小中学校のPTAの活動を通して、青少年の関係者へインターネットの有害情報等の現状や、安心して利用するための啓発活動を実施することができた。 <b>【課題】</b> ・小中学校等のPTA等に限定せず、青少年に対して直接、インターネット上の違法・有害情報の現状や安心してインターネットを利用するための啓発活動の推進が必要である。	B
	家庭教育学級や青少年健全育成関係者向け研修会におけるインターネットやスマートフォン等の通信機器の適切な利用に関する情報発信と啓発	<b>【成果】</b> ・家庭教育学級等の事業を通して、インターネットやスマートフォン等の通信機器におけるフィルタリング機能などの適切な利用方法について学ぶことのできる研修を実施することができた。 <b>【課題】</b> ・家庭教育学級等に限定せず、より広く町民に対し、日々進化するインターネットやスマートフォン等の通信機器の適切な利用方法について、さらに啓発を図る必要がある。	B

## 令和元年度

重点	取組項目	成果・課題	評価
家庭教育への支援	幼児期における家庭教育の重要性と方法を学ぶ幼児期家庭教育学級の推進	【成果】 ・幼児期家庭教育学級中央研修会を開催し、幼稚園、保育園、こども園の保護者会役員を中心に家庭教育に関する研修会を開催することができた。 ○幼児期家庭教育学級中央研修会 令和元年度 開催回数3回 参加者140名 (平成30年度 2回 140名)	A
	小中学生の保護者としての家庭教育の在り方について学び、実践的態度の育成を図る小中学校家庭教育学級の推進	【成果】 ・子育てに関する講演会や親子の体験活動を通して、親同士が子どものしつけや子育ての悩みについて相談をする中で、お互いに悩みを共有でき、子育てに対する精神的な負担軽減を図ることができた。 ○小中学校家庭教育学級開催数 令和元年度 開催回数41回 参加者4,872人 (平成30年度 50回 6,166人)	A
	命の大切さと規範意識を身に付けさせるための学習機会の充実	【成果】 ・各地区の青少年健全育成推進員会では、地域の特色を生かしながら、ホテルを育てる活動や、マスつかみ体験といった活動を通して命の大切さを学ぶ機会をつくることができた。	A
	親と子の絆をつくる「家族と朝食」の推進	【成果】 ・幼稚園、保育園、こども園の保護者会や小中学校のPTAの協力を得ながら、家庭教育学級の取組の中で、「家族と朝食」の取組を実践することができた。	A
	親と子の絆をつくる親子読書や5分間読み聞かせの推進	【成果】 ・幼稚園、保育園、こども園の保護者会や小中学校のPTA、地域ボランティア等の協力を得ながら、家庭教育学級の中で親子読書や読み聞かせの取組を実践することができた。	A

令和元年度			
重点	取組項目	成果・課題	評価
人権が尊重される明るい地域社会づくりの推進	人権教育促進会議を中核とした「学校」「家庭」「地域」への人権啓発及び人権教育の推進	<b>【成果】</b> ・人権週間にあわせて人権フォーラムを開催し、人権意識の高揚を図ることができた。交通事故で片足を失い、障がいをもつ絵本作家として活動をされている、後藤政幸氏を迎え、「すべての人に思いやりと優しさを持ち、笑顔で住みよい垂井町にするために～今、私たちは、何をすべきか考えよう～」をテーマに、不破高等学校の生徒や不破中・北中学校の生徒、人権擁護委員、PTA会長らを交えた、パネルディスカッションを行うことができた。 ○垂井町人権フォーラム 令和元年度 参加者348人 (平成30年度 参加者400人)	A
	人権啓発作文、人権ポスター、我が家の人権標語などを活用した人権意識高揚のための取組	<b>【成果】</b> ・人権作文や我が家の人権標語の入選者の作品を掲載した人権啓発リーフレットを作成し、全世帯に配布することができた。さらに、人権啓発作文の優秀作品を広報たるいに掲載し、町民の人権意識の高揚を図ることができた。 ≪人権作文・ポスター・標語の応募数≫ ・人権啓発作文 令和元年度 221点 (平成30年度 255点) ・人権啓発ポスター 令和元年度 379点 (平成30年度 386点) ・我が家の人権標語 令和元年度 673点 (平成30年度 929点) <b>【課題】</b> ・町民の人権意識を高めるためのさらなる取組として、生き生き学級や家庭教育学級の活動の中で、人権に関する講座を開設し、多くの人が人権について学び、考えることができる場を提供する必要がある。	B
地区まちづくり協議会との連携	地区まちづくり協議会への生涯学習に関する情報の提供と支援	<b>【成果】</b> ・地区まちづくり協議会連絡会の中で生涯学習に関する情報の提供を行うことができた。	A



令和元年度			
重点	取組項目	成果・課題	評価
	次の事業の実施に向けた、垂井町 地区まちづくり協議会連絡会との連 携並びに事業の推進 ・地区青少年育成協力推進員会事 業 ・地区青少年育成地域づくり推進 事業 ・地区地域子ども教室推進事業 ・各種スポーツ・体育推進員に関わ る事業	<b>【成果】</b> ・地区まちづくり協議会の協力を得ながら、 青少年健全育成や地域子ども教室、各種 スポーツ・体育推進員に関わる事業等 について、それぞれの地域で特色ある事業 を実施することができた。	A

社会教育(スポーツ)

令和元年度			
方針	○町民一人1スポーツを目指す生涯スポーツの推進		
重点	取組項目	成果・課題	評価
町民一人1スポーツ活動の推進	スポーツ機会の提供充実	<b>【成果】</b> ・町民一人1スポーツ推進のもと、生涯スポーツの普及・振興のため、町スポ・レク祭を開催することができた。また、スポーツ推進委員、体育推進員、地区まちづくり協議会と連携し、各地区において、スポーツ大会、教室を開催することができた。 ・各小中学校体育館等において、小中学校等体育施設開放事業を推進することができた。 ・朝倉運動公園各スポーツ施設・設備、町体育施設を改修、整備し、利用者の利便性向上に努めることができた。	A
	スポーツ指導者の養成と確保	<b>【成果】</b> ・スポーツ指導者の資質向上として、体育推進員研修会や体育協会・スポーツ少年団指導者研修会を開催することができた。また、各種目協会が自主的に各種研修に参加することができた。 <b>【課題】</b> ・垂井町公認スポーツ指導員をはじめ、各団体のスポーツ指導者は、様々な事象に対応できる知識や技術が必要である。そのため研修会を増やしたり、質の高い研修をする必要がある。また、近隣市町で研修会が開催された場合、参加できるよう情報を提供する必要がある。	B
	スポーツを通じた健康と体力の保持と増進	<b>【成果】</b> ・健康づくり推進事業として、町スポ・レク祭や町民水泳大会、町総合体育大会、町一周駅伝大会を開催することができた。また、地区のまちづくり協議会と連携し、事業を行うことができた。 ・誰でも気軽に参加できるウォーキングを開催し、健康と体力の保持と増進を図ることができた。	A
	各スポーツ団体の連携強化	<b>【成果】</b> ・組織化に向けては、町体育協会・町スポーツ少年団・(特非)Let'sたるい・郡レクリエーション協会の自主自立に向けた協議を行うことができた。	B

## 令和元年度

重点	取組項目	成果・課題	評価
		<p><b>【課題】</b></p> <p>・各スポーツ団体には、設立からの経緯・歴史があり団体の共通理解を深めるためにも、各スポーツ団体の連携強化に向けて協議を行っていく必要がある。そのためにも、町体育協会・町スポーツ少年団の自主自立が必要不可欠であることから、自立に向けたさらなる取組が必要である。平成29年度から委員会を幾つも立ち上げたが、委員会の統合等スリム化を考えて、より強化を図る必要がある。また、実行委員会自体も、自立をしていく必要がある。</p>	

中央公民館

令和元年度		
方針	<p>○地域づくり型生涯学習、地域コミュニティの拠点施設として、その機能の充実に努める。</p> <p>○地区まちづくり協議会と連携し、健康と生きがいを持ち続け、ふれあいと連帯感のある地域社会づくりの実現を目指す。</p>	
重点	成果・課題	評価
地域のふれあい交流の場として、利用団体の活動を支援する。	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各種講座や教室、クラブ・サークル活動など、町民がふれあい、そして、交流ができる場として施設を開放することができた。</li> </ul>	A
社会教育団体等に施設を開放し、団体の育成及び自主的な団体の運営に向けた支援を行う。	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育団体等に施設の開放をし、団体が活発に活動できるよう支援することができた。さらに、自主的な運営ができるよう、団体の育成に努めることができた。</li> </ul>	A
西濃地区社会教育推進協議会、公民館連合会、社会教育委員連絡協議会から提供される情報は、社会教育委員の会並びに地区まちづくり協議会と情報を共有し、連携を図る。	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西濃地区社会教育推進協議会や公民館連合会等から提供される情報は、社会教育委員の会並びに地区まちづくり協議会連絡会に情報の提供を行うことができた。</li> </ul> <p>このほか、岐阜県や西濃地区社会教育推進協議会が主催した研究大会に参加するなど、社会教育委員の会並びに地区まちづくり協議会との連携を図ることができた。</p>	A
視聴覚機器の利用を促進する。	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園、保育園、こども園、小中学校、社会教育団体等に、視聴覚機器の利用促進を図ることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園、保育園、こども園、小中学校、社会教育団体等に周知はしてきたが、利用者が少ないため、今後も継続して利用を促進する必要がある。</li> </ul>	B

文化会館

令和元年度			
方針	○豊かな心と創造性を育み感動の輪を広げるために、文化芸術活動の振興、伝統芸能の継承と発表、町民に親しまれる文化会館の運営に努める。		
重点	取組項目	成果・課題	評価
町民に親しまれる文化会館の運営	文化交流と憩いの場として町民が気軽に利用し、多様な活動に参加できる事業の提供に努める。	<b>【成果】</b> ・町民参加型の自主事業を開催することができた。 ≪四季のコンサート≫ 桜花香るひととき 4/13 2団体 61人 梅雨のひととき 6/1 3団体 92人 夕涼みのひととき 8/3 3団体 82人 秋晴れのひととき 11/2 3団体 77人 新春のひととき 1/5 2団体 80人 春のおとずれ 3/21 中止 ≪音楽祭≫ 器楽・吹奏楽の部 8/25 7団体 341人 合唱の部 11/24 12団体 600人 邦楽の部 3/15 中止 <b>【課題】</b> ・新型コロナウイルス感染症拡大のため臨時休館となり、3月に予定していた事業が中止となった。今後、感染予防対策を講じながらの開催方法を検討していく必要がある。	B
	文化の拠点として施設や設備等の環境整備を図る。	<b>【成果】</b> ・小ホール電動バトン設置工事や文化会館北側歩道橋塗装修繕工事等を行うことができた。 <b>【課題】</b> ・今後、耐震化補強を含む大規模改修工事を実施して行く必要がある。	B
	会館が十分に活用される企画運営や情報の提供に努めるため、ホームページの充実と更なる運用を図る。	<b>【成果】</b> ・自主事業や、主な行事等の情報提供を行うことができた。 <b>【課題】</b> ・SNS等のソーシャルメディアに対応していく必要がある。	B
文化芸術活動の振興	優れた文化芸術に親しむ機会を提供し、創造性豊かな心を育むため、住民参加型の事業を開催する。	<b>【成果】</b> ・優れた芸術文化に親しむ機会を提供することができた。 ≪文化講演会≫ 7/27 青山学院大学 陸上競技部 監督 原晋 571人 ≪青少年芸術鑑賞会≫ 小学生 12/13 オーケストラ「スチールパンオーケストラPAN NOTE MAGIC」 558人 中学生 11/18 落語「爆笑おもしろ名人寄席」 568人	A

重点	取組項目	成果・課題	評価
	伝統芸能の継承や文化芸術活動への参加意欲を高めるため、発表の場を提供する。	<b>【成果】</b> ・町展、芸術文芸展を開催し、創作活動及び参加意欲を高めるための発表の場を提供することができた。 ≪町展≫ 審査有 10/5～13           511人 少年の部    出品点数 565点 10/19～27       1,580人 一般の部    出品点数 89点 <b>【課題】</b> ・少年の部の来場者や一般の部の出品点数が前年度と比較して大幅に減少しており、広報活動を工夫して行う必要がある。	B
文化芸術団体の育成	町芸術文化協会の自立を促しながら、団体の育成・運営指導に努める。	<b>【成果】</b> ・芸術文化協会の自立への働きかけと、育成・運営指導を行うことができた。 令和元年度会員数 45団体 1,231人 平成30年度会員数 46団体 1,153人 平成29年度会員数 46団体 1,308人 <b>【課題】</b> ・団体の確立を図るため、会員の高齢化・後継者不足等の問題を解消する必要がある。	B
	芸術文化の意識の高揚と、文化活動の発表の場を提供する。	<b>【成果】</b> ・町の芸術文化祭を通じ、会員の意識の高揚を図ることができた。 ≪第48回芸術文化祭、芸能祭の開催≫ [芸能祭第1部] 9/28 12団体 360人 [芸能祭第2部] 9/29 13団体 200人 [芸術文化祭] 美術展、華道展、町民茶会、菊花展、 謡曲大会、俳句大会 延べ1,269人	A
青少年文化団体の育成	少年少女合唱団、青少年吹奏楽団の練習・発表の場を提供する。	<b>【成果】</b> ・練習の場や発表の場の提供をし、活動の支援を行うことができた。 TSS～ウィンドアンサンブル垂井(青少年吹奏楽団) 定期演奏会 5/26 700人 少年少女合唱団 定期演奏会 中止 団員数 令和元年度 20人 平成30年度 23人 平成29年度 23人 <b>【課題】</b> ・少年少女合唱団の団員数が減少しており、魅力ある活動と募集方法を検討する必要がある。	B

タルイピアセンター(図書館)

令和元年度			
方針	<p>○図書館資料の収集・整理に努める。</p> <p>○図書館サービスの向上を図るため、団体貸出、児童サービス及び高齢者・障がい者サービスの充実に努める。</p> <p>○利用者からの各分野の課題を解決するため、レファレンス機能の強化に努める。</p> <p>○生活に密着した図書館づくりのため、各種事業の実施に努める。</p> <p>○地域を支える情報拠点としての図書館づくりに努める。</p>		
重点	取組項目	成果・課題	評価
図書館資料の収集・整理	一般書、児童書、雑誌、AV資料等の収集・整備を図るとともに、行政資料、ふるさとの本、レファレンス資料の充実に努める。	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般書を始め、各種資料の充実に努めることができた。</li> <li>・児童書について、基本図書の充実と人気の高い本の新刊本購入に努めることができた。</li> <li>・貸出冊数は、平成29年度:204,242冊、平成30年度:196,291冊、令和元年度:187,867冊(前年度比較8,424冊減、4.3%減)となった。</li> <li>・入館者数は、平成29年度:125,613人、平成30年度:119,558人、令和元年度:106,511人(前年度比較13,047人減、10.9%減)となった。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的な読書活動につなげるため、読書に親しめる環境づくりや、資料収集に一層の工夫を凝らす必要がある。</li> </ul>	B
	時勢に即対応できる資料の収集と情報提供に努める。	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節毎のテーマ展示のほか新聞等メディアで取り上げられた話題について、関連書を収集し、展示を行うことができた。(芥川賞、直木賞、本屋大賞、絵本大賞受賞作品特集など)</li> <li>・他課等が取り組む施策についての関連本展示を行うことができた。(男女共同参画週間、がん抑圧月間、生物多様性、健康増進普及月間、世界難病デーなど)</li> </ul>	A
団体貸出の充実	各種団体への貸出促進に努める。	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園、小学校、中学校、保健センター、PTA団体等へ貸し出しを行うことができた。(79団体)</li> <li>・貸出冊数は、平成29年度:16,361冊、平成30年度:14,460冊、令和元年度:13,001冊(前年度比較1,459冊減、10.1%減)となった。</li> <li>・学校から授業に関連する図書の貸出依頼も増えており、学校への読書活動推進を行うことができた。</li> </ul>	A

令和元年度			
重点	取組項目	成果・課題	評価
		【課題】 (削除)	
	町内各施設へ巡回し団体貸出の充実に努める。	【成果】 ・こども園・保育園・幼稚園及び西濃清風園へ毎月巡回訪問し、団体に対し、絵本等の貸出を行うことができた。	A
児童・青少年向けサービスの充実	「垂井町第二次子どもの読書活動推進計画」に基づき、子どもたちの豊かな人間性を育むため、乳幼児へのブックスタートから幼稚園児に対する読み聞かせの実施、小学校・中学校へのブックトーク、青少年への読書案内等の充実に努める。	【成果】 ・保健センターにて毎月ブックスタートを行い、乳幼児の絵本へのふれあいのため読書推進活動を行うことができた。 ・幼稚園へ出向き、延べ15回の読み聞かせを実施し、幼稚園児の感性の育成の一助を担うことができた。 ・各小中学校へ述べ34回のブックトークを実施し、本との出会い等、読書への関心をもってもらうことに寄与することができた。	A
	学校及び学校司書との連携による団体貸出などの後方支援、生徒・児童の読書傾向等の情報の共有化に努める。	【成果】 ・中学生～高校生の図書館利用を促すために、人気の高いライトノベル(表紙や挿絵にアニメ調のイラストを多様している中高生向けの小説)の収集のほか、中高生に読んでほしい本の充実に努めることができた。 ・学校司書との意見交換会を実施し、学校と図書館との読書傾向について情報共有を行い、児童生徒に人気のシリーズ本の資料収集及び充実に努めることができた。	A
	(削除)		
高齢者・障がい者サービスの充実	高齢者の読書推進のため、大活字本の収集・整備を行う。	【成果】 ・大活字による小説のほかにパソコン関連書を収集し、生活に役立てる本の充実に図ることができた。 ・ボランティアグループ「鈴虫の会」による広報の音訳テープ作成を行うことができた。	A
	視覚障がい者の読書推進のため、大活字本や点字本の収集・整備を行う。	【成果】 ・点字絵本・点字ものがたり及び県広報点字版を収集し、障がい者用の資料の充実に図ることができた。	A



令和元年度			
重点	取組項目	成果・課題	評価
	障がい者の読書推進のための環境整備や障がい者の個別の状況に応じた配慮を行う。	【成果】 ・館内資料を自由に閲覧できるよう、館内のバリアフリー化や障害物の撤去などを行うことができた。	A
情報ネットワークの強化とその活用	県図書館を中心とした県内外のネットワークを活用し、相互貸借や書誌情報等の共有化を図り、利用者への図書館サービスの充実に努める。	【成果】 ・県内、東海及び北陸の図書館ネットワークを活用したことにより、本の相互貸借の充実に努めることができた。 ・実績は、平成29年度：貸出315冊・借受227冊、平成30年度：貸出285冊・借受167冊、令和元年度：貸出251冊・借受219冊	A
	インターネットやレフェラルサービス(博物館・美術館等の専門機関の紹介)活用による情報の収集、提供に努める。	【成果】 ・インターネットによる情報検索、他図書館等の所蔵資料検索の技術向上に努めた。また、レファレンスでの該当博物館等、紹介及び協力依頼に努めることができた。	A
レファレンス機能の強化	住民からの各分野の課題解決を支援する相談・情報提供の機能の強化と相談内容の共有・集約に努める。	【成果】 ・館内資料の情報提供をはじめ、インターネット及び県図書館ネットワークを活用し、レファレンスの対応を図ることができた。 ・対応実績は、平成29年度：447件、平成30年度：248件、令和元年度：242件となった。	A
各種事業の実施	図書館資料から得る情報をもとに、知識と体験の相乗効果を図るため、ボランティアグループなどの協力を得ながら、各種事業を実施する。	【成果】 ・スタンプラリー、読み聞かせ等、各種事業を実施することができた。	A
地域を支える情報拠点としての図書館づくりに努める。	医療・健康情報サービス及びビジネス支援サービスの充実に努める。	【成果】 ・セカンドオピニオンとしての図書館の役割として、医療・健康に関する正確な情報の収集及びビジネスを後方支援する資料の収集を行うことができた。	A
	各種団体との連携による読書推進活動の全域サービスに努める。	【成果】 ・保健センター及び読み聞かせボランティアグループとの連携を図り、乳幼児へのブックスタート活動や絵本の読み聞かせを毎月行うことができた。	
センターの環境整備	高齢者や児童にとって居心地のよい図書館及びセンター全体の環境整備に努める。	【成果】 ・館内の設置物による衝突やケガを防ぐため、設置物の配置換えを行い、館内閲覧にストレスのないよう見直しを行うことができた。また、館内全体の明るさをブラインドで調節し、開放感のある施設の整備を行うことができた。	A

タルイピアセンター(歴史民俗資料館・歴史文献センター)

令和元年度		
方針	○郷土の歴史・文化に対する学習の拠点となるよう、積極的な施設運営に努める。 ○資料の収集・整理に努め、収蔵資料の充実を図る。	
重点	成果・課題	評価
郷土の歴史・文化等に対する関心・理解をより深めるため、企画展、ミニ企画展、講演会、講座等を開催する。	<b>【成果】</b> ・企画展及びミニ企画展に9,902人(開館日数118日)の入場があり、昨年度の11,059人(開館日数165日)と比較すると、昨年度より一日平均の来場者数が17人増加した。 ・通常の企画展1回、特別企画展2回開催し、1年を通して郷土の歴史や文化に触れる機会を設けることができた。	A
小中学校等との連携を図りながら、資料や学習の場の提供に努める。	<b>【成果】</b> ・学校からの依頼により、町の歴史などを紹介する機会を設けることができた。 見学実績:垂井小、東小、府中小、岩手小、不破中、不破高 <b>【課題】</b> ・全ての小中学校へ資料や学習の場を提供できるよう、さらなる働きかけを行い、町の歴史や文化を学ぶ機会を設ける必要がある。	B
ボランティアグループなどの協力を得ながら、収蔵資料の整理・研究に努め、その成果を踏まえた刊行物を作成するなど各種情報を提供する。	<b>【成果】</b> ・企画展に関する図録を作成し情報を提供することができた。	A
展示資料についての理解をより実感的、共感的なものにするため、歴史教室などの体験活動を重点とした事業を実施する。	<b>【成果】</b> ・学校の出前授業などの際に、収蔵資料を紹介するとともに、実際に触れられるようにすることにより、理解を深めていただくことができた。 <b>【課題】</b> ・様々な人たちに歴史や文化を理解していただけるように幅広い企画を行う必要がある。	B
郷土にかかわる歴史民俗資料の収集に努める。	<b>【成果】</b> ・垂井町に関する中世を中心とした専門書の充実を図ることができた。	A

タルイピアセンター(文化財)

令和元年度			
方針	○豊かな心と創造性を育み、感動の輪を広げる文化の振興を図る。 ○先人から受け継がれた宝を確実に未来へ引き継ぐ。		
重点	取組項目	成果・課題	評価
文化財や伝統 芸能の保存・ 伝承	貴重な文化財を次代に引き継ぐために、管理状況や保存修理の把握に努め、適正かつ効率的な保存修理事業の推進を図る。	【成果】 ・垂井曳やま鳳凰山のやま蔵の保存修理事業に対して支援を行うことができた。	A
	文化財や伝統芸能の保存伝承を支援し、その調査研究を推進する。	【成果】 ・町内遺跡の試掘調査や詳細分布調査の報告書の刊行を行い、埋蔵文化財の保護に努めることができた。	A
	文化財愛護活動の育成及び普及に努める。	【成果】 ・文化財マップの配布、文化財愛護の標柱や説明看板等を設置することにより、文化財の愛護に対する啓発ができた。 ・出前講座等により垂井町内の文化財を紹介し、愛護思想の普及に努めることができた(地区まちづくり協議会等)。	A
	文化財登録制度を活用し、地域の埋もれた文化財の発掘に努める。	【成果】 ・磯野家住宅主屋・鉄塔山神社本殿の2件が登録文化財となった。	A